

大東文化大学 語学教育研究所所報

No. 46 2023年3月

目次

2022（令和4）年度活動報告	1
2022（令和4）年度語学教育研究所運営委員及び研究員	2
研究員研究分野の紹介、客員研究員、特別研究員	3
2022（令和4）年度研究発表会	4
2022（令和4）年度講演会	8
刊行物について	9
原稿募集要項「語学教育研究論叢」第40号	10
原稿募集のお知らせ「語学教育フォーラム」第38号	11
2022（令和4）年度購入図書一覧	12

2022（令和4）年度活動報告

語学教育研究所所長
丁 鋒

今年度はコロナ流行の三年目で、感染予防・ワクチン接種・患者治療を中心とする取り組みは国際的に展開される中、相互交流と社会運行も次第に開放され、正常に戻り続けています。この未曾有な情勢下で、当研究所は前年度と同様に、全ての業務が計画通りに遂行されました。これは、運営委員・研究員・事務職員の皆様のご努力ご尽力の賜物であり、大変お疲れ様でした。

研究所の「所刊」である『語学教育研究論叢』は40号の刊行になりました。集稿・査読・編纂・校正・刊行など一連の作業に、小野寺賢一編集委員長が率いる編集委員の皆様は、教務職務多忙の傍ら、細心かつ丁寧な態度で完璧に責任を果たしました。最新号に採用された論作は計14本有り、内訳は教員9本、研究員2本、大学院生3本となり、専門分野は語彙学・音声学・文法学・語学教育論・文学言語論など広く及んでいます。

論集刊行に当たる『語学教育フォーラム』は、昨年度に行った編集委員会議の議論結果に踏ま

え、募集要項の改訂が施行され、科研費の使用に関する文言を導入しました。日頃の学術研鑽で仕上げられた専任教員の研究成果が益々刊行されることに、大いに期待しております。語学教育研究所の予算は限られる事情がある中、個人名目下にある科研費の使用と研究所予算使用の細則化議論は次期研究所の担当者に委ねることになりますが、この二年間で、取り組みに腐心した語学教育フォーラム編集委員長の上村圭介先生のご尽力に深く感謝いたします。

今年度、『語学教育フォーラム』に一件の投稿があり、順調に刊行されました。『語学教育フォーラム』の投稿は年度により本数が一定しない上、無投稿の年度もあります。研究所予算を有効に使用するのが大いに意義あることと言えるでしょう。

今年度の研究発表会は、コロナ流行事情のため、引き続きオンライン方式で行われました。四回の日程中、運営委員7名と研究員3名（李冬松先生、孫云偉先生、蘇秋韻先生）の最新研究成果が披露され、文法、語彙、語史の課題とする言語研究、欧米文学研究、言語政策研究など様々な分野に及びまして、外国語学部の学術交流を大いに促進しました。

中国語・日本語・英語・フランス語・ドイツ語など五部会の講演会は各学科の先生方のご協力で、学部生と大学院生を対象に、オンライン方式や対面方式で開催されました。部会長の田村新先生をはじめ、運営委員の大島吉郎先生・田口悦男先生・福永美和子先生・ジェフリー ジョンソン先生・フランソワ ルーセル先生及び各関係者から多大なご支援を賜りました。講演会で佛教大学池田晋先生、駐日セルビア共和国特命全権大使アレクサンドラ・コヴァチュ氏、観光庁国際観光部国際観光課長補佐大宅千明氏、弁護士大畑敦子氏、千葉大学フランク・リースナー先生は外交関係・国際情勢・観光推進・語学研究など話題性のある多彩な内容でご講演下さりまして、深く謝意を申し上げる次第です。

2022 年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

2022 年度 語学教育研究所運営委員

所 長	丁 鋒	外国語学部中国語学科
研究部会長	田村 新	外国語学部中国語学科
学 部 長	山口 直人	外国語学部中国語学科
学科主任	竹島 毅	外国語学部中国語学科
学科主任	米山 聖子	外国語学部英語学科
学科主任	福盛 貴弘	外国語学部日本語学科
研究科委員長	鈴木 敬了	外国語学部英語学科
委 員	大島 吉郎	外国語学部中国語学科
委 員	ジェフリー・ジョンソン	外国語学部英語学科
委 員	福永美和子	外国語学部英語学科
委 員	フランソワ ルーセル	外国語学部英語学科
委 員	田口 悦男	外国語学部日本語学科

2022 年度 語学教育研究所研究員

部会長	田村 新	外国語学部中国語学科
研究員	安藤 好恵	外国語学部中国語学科
研究員	深澤 明利	外国語学部英語学科
研究員	三上 傑	外国語学部英語学科
研究員	小野寺賢一	外国語学部英語学科
研究員	野澤 督	外国語学部英語学科
研究員	上村 圭介	外国語学部日本語学科

研究員研究分野

氏名： 田村 新

所属： 外国語学部中国語学科（中国語）

分野： 中国語学／中国語教育

氏名： 安藤 好恵

所属： 外国語学部中国語学科（中国語）

分野： 中国語学／中国語教育

氏名： 深澤 明利

所属： 外国語学部英語学科（英語）

分野： 現代アメリカ文学・批評理論

氏名： 三上 傑

所属： 外国語学部英語学科（英語）

分野： 英語学、言語学（生成文法理論、
比較統語論）

氏名： 小野寺 賢一

所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）

分野： ドイツ近代文学（ジャンル詩学・
抒情詩理論・リュリコロジー）

氏名： 野澤 督

所属： 外国語学部英語学科（フランス語）

分野： フランスの旅行記文学・文体論

氏名： 上村 圭介

所属： 外国語学部日本語学科（日本語）

分野： 言語政策論・日本語情報処理論

客員研究員

氏名： 李 冬松

期間：2022年2月18日～2023年2月16日

研究テーマ：清国留学生楊度の国民性思想論考
—清国教育をめぐる嘉納治五郎との論争を中心に

氏名： スティーブ・マーシャル

期間：2022年9月16日～2023年2月28日

研究テーマ：南米出身日系人の移動経験と複数
言語使用

特別研究員

氏名： 蘇 秋韻

期間：2021年9月1日～2023年8月31日

研究テーマ：位置移動詞“過”の文法化について

氏名： 孫 云偉

期間：2022年4月1日～2023年3月31日

研究テーマ：唐通事教科書の編纂過程及び
語彙学研究

研究発表会

第1回

日 時：2022年6月6日（月）

第1発表

発表者： 田村 新

題 目： 中国語文法研究の指標についての一考察

概 要： 中国では1920年になるといわゆる「言文一致運動」の中で現代中国語を記述した文法書が多数出現する。発表者は1924年『新著国語文法』までに出版された多数の文法著作を対象として、当時の中国語研究について考えてきたが、その中でこれらの研究を客観的に評価する指標がないことに気が付いた。本発表では太田辰夫が1950年に清代北京語の指標を挙げたように、文法著作を評価する統一した指標について考え、諸氏の批判を仰ぎたい。

第2発表

発表者： 上村 圭介

題 目： 言語政策とは何か、言語政策研究とは何か

概 要： 言語政策は、狭義には、ある共同体における言語や言語状況に、所定の目標の実現を目指して、公的な主体が統制を加えることである、と定義できるが、広義には、話者個人の「言語管理」までを含むとする立場もあり、その範囲は一定しない。同じように、言語政策研究についても、かなりの広がりがある。本発表では、他の政策分野との比較を通して、言語政策と言語政策研究をどうとらえるべきか整理を試みる。

第2回

日時：2022年10月31日（月）

第1発表

発表者：孫 云偉

題目：江戸時代『平妖伝』本城訳における漢語の使用状況 —昭和期太田辰夫訳との比較—

概要：本研究は、日本で翻訳された中国明末の白話小説『平妖伝』における漢語収録状況を分析し、日本における漢語使用の史的考察を試みる。江戸末期本城維芳訳『通俗平妖伝』（1802）に幅広く漢語を取り入れ、「唐話」を重要視する側面を窺える。それに対して、昭和期太田辰夫訳（1967）の漢語使用は随分少ない一方、独自の漢語収録も見える。両訳の漢語収録を分析し、成因を追い求める。

第2発表

発表者：李 冬松

題目：日本語版『共産党宣言』における「国民性（nationality）」の訳語変遷

概要：19～20世紀の民族解放運動の波の中で、「nationality」という概念は意味が複雑になり、論争的な政治学概念となっていた。本発表は『共産党宣言』のドイツ語原本及び英語、フランス語、ロシア語訳本を用いて、異なる日本語バージョンのこの概念に対する翻訳全貌及び訳語の変遷を考察する。さらに、マルクス、エンゲルスが他の場面で用いたこの概念に触れ、その意味合いを吟味し、日本語版における訳語の適切性を分析する。

第3回

日時：2022年11月28日（月）

第1発表

発表者：深澤 明利

題目：亡命、モビリティ、カイロス——ウラジーミル・ナボコフ自伝『記憶よ、語れ』について

概要：本発表では、ロシアに生まれアメリカへ亡命した多言語作家ウラジーミル・ナボコフ（1899-1977）の自伝『記憶よ、語れ』（*Speak, Memory*, 初版1951年）を取り上げる。頻繁に空間を移動しつづけたこの作家が、その生涯において経験した出来事、およびそれに付随するカイロス（意味づけられた時間）を、いかに描写しているのかを考察する。そのうえで、ナボコフの作品の諸特徴を明らかにすることを目標とする。

第2発表

発表者：安藤 好恵

題目：“认真(地)V”と「まじめに～する」について

概要：中国語の状語（連用修飾語）は主語の後、述語の前に位置し、述語を修飾する成分である。刘月华 1989 は状語を描写性状語と非描写性状語に分け、描写性状語は更に①動作主を描写する、②動作を描写する、③目的語を指向するの3種類に分けられると指摘している。本発表では①と②の側面をもつ形容詞“认真”について、文中における状語成分としての働きをみていきたい。

第3発表

発表者：蘇 秋韻

題目：《水滸全傳》における“过”—「到達」義を表す“过”を中心に

概要：位置移動動詞“过”は現代中国語において「経過・通過」義として認識されている。一方、方言に目を転じると、主に南方方言において「到達」義としての用例が見られることも確認出来る。とすれば、“过”は通時的变化の過程で、北方方言の中から、ある時期に「到達」義を失ったとの見方が成立するのではないかと考えられよう。本発表では明代万暦年間に刊行された版本をもつ《水滸全傳》の“过”について、「到達」義での解釈が成り立つ例を取り上げ、位置移動動詞“过”の語義変遷の一端を明らかにしようとする。

第4回

日時：2022年12月12日（月）

第1発表

発表者：三上 傑

題目：言語変異と言語変化：統一적のアプローチの可能性を探る

概要：生成文法理論では、自然言語の普遍性と多様性を捉えるための理論的枠組みとして「原理とパラメータ・アプローチ」が採用され、これまでに様々なパラメータが提案されてきた。しかしながら、その多くは、共時的観点か通時的観点のいずれかによってのみ妥当性が立証され、両観点からの十分な検証がなされるには至っていない現状がある。本発表では、より説明力の高い言語理論の構築に向けた、言語変異と言語変化を統一的に捉えるアプローチの可能性について考察したい。

第2発表

発表者：野澤 督

題目：デュパティの『イタリアに関する書簡』におけるローマの描写からみる
18世紀旅行記ジャンルの変遷

概要：デュパティ（1746-1788）の『イタリアに関する書簡』（1785）の文学史的立場づけについて考察する。18世紀には旅行記記述の性格が変化したと言われている。シャトーブリアンはこの旅行記のうちにルソー的なものを感じ、そこにロマン主義的性質の萌芽を見ている。本発表ではこの指摘を検証することを目的とし、文学史的視点からデュパティが描いたローマについて報告する。

第3発表

発表者：小野寺 賢一

題目：抽象的な作者をめぐるリュリコロジーと審級理論のあいだの論争について

概要：ドイツ語圏では近年、抒情詩の理論的な究明がさかんに試みられている。この研究動向の中心にいるのはDFGプロジェクト「リュリコロジー」（2016—2020）の参加者たちであり、その議論にロシア文学研究者シュタールを中心とする研究グループが加わっている。本発表では、「抽象的な作者（abstrakter Autor）」の概念をめぐり、両陣営のあいだでくりひろげられた論争を整理して紹介する。

講演会

第1回

日 時： 令和4年11月19日（土）

場 所： Zoomによるオンライン開催

講演者： 池田 晋 氏

演 題： 多様性の複文——「疑問詞連鎖構文」の正体を考える

概 要： 中国語学習者が初級段階の後半で出会う“谁先回家谁做饭。”のような表現形式は、一般に「疑問詞連鎖構文」などと呼ばれるが、この表現形式が中国語の文法体系の中でどのように位置付けられるかという点に関しては、これまで学界の中で統一的な見解が示されてこなかった。本発表ではこの表現形式を一種の特殊な条件文であると捉えることで、その意味的特徴を合理的に説明できることを示したい。

第2回

日 時： 令和4年12月20日（火）

場 所： 大東文化大学板橋校舎3号館30204教室

講演者： アレクサンドラ・コヴァチュ 氏

演 題： セルビアと日本の友好関係140年

概 要： 東ヨーロッパのバルカン半島に位置するセルビア共和国と日本との友好関係は、19世紀末にさかのぼります。首都ベオグラードには、2003年、日本の無償資金協力による黄色いバス93台が走り、中心部のカレメグダン公園には、日本からの支援への感謝の印「日本の泉」が設置されています。蚊取り線香の除虫菊のルーツも、セルビアです。これからの世界をになってゆく学生のみなさんとともに、今年140周年を迎える両国の友好の歴史を振り返り、未来へとつないでいけたらと願っています。

第3回

日 時： 令和4年12月22日（木）

場 所： Zoomによるオンライン開催

講演者： 大宅 千明 氏

演 題： 持続可能な観光の推進と国際動向について

概 要： 新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界の観光産業は大きな影響を受けましたが、それは改めて観光について再考する機会にもなりました。日本でも10月からビザ無し渡航が再開され、訪日外国人旅行客の姿もまた見られるようになりましたが、より良い回復に向けて、持続可能で強靱な観光への転換が求められています。講義では、最近の国際観光の動向や、持続可能な観光地づくりに向けた国内外の取組について紹介します。

第4回

日 時： 令和5年1月11日（水）

場 所： 大東文化大学板橋校舎3号館30114教室

講演者： 大畑 敦子 氏

演 題： 弁護士からみた異文化コミュニケーションの壁 ―それをどう乗り越えるか？

概 要： 国際離婚事件に携わる中で、両当事者の間に、家族に関する考え方について理解し合えない大きな違いがあることにいつも気付かされています。また、一方が良かれと思ってした言動が相手には嫌がらせととられ、そのために余計に紛争が激化することもあります。これは言語の問題か、コミュニケーションの問題か、それとも越えることのできない文化の壁なのでしょうか？ 弁護士としての経験をもとに、離婚事件における異文化コミュニケーションの難しさとその対策をお話しします。

第5回

日 時： 令和5年1月12日（木）

場 所： 大東文化大学東松山校舎11号館11-0202教室

講演者： フランク・リースナー 氏

演 題： 壁の向こうの日常生活 東ドイツの歴史と社会

概 要： 本講演では1945年から1990年まで存在したドイツ民主共和国（DDR）での日常生活を中心に、歴史的に重要な出来事と、東ドイツ人が日常生活で直面した困難について、DDR出身の講師が説明する。DDRでは経済的な困難や自由に対する厳しい制限などから民衆の不満が高まり、それが政権崩壊の引き金となった。他方でこの社会主義国家にも良い面がみられた。こうしたことは資本主義社会で育った多くの人々の想像をはるかに超えるものである。それゆえ、当事者が私的な写真資料も交えて、その情報を伝えることには大きな意義があると考えられる。

刊行物についてお知らせ

『語学教育研究論叢』第40号（2023年3月刊行）

『語学教育フォーラム』第38号（2023年3月刊行）

原稿募集要項

語学教育研究論叢第40号

語学教育研究所所長 丁 鋒
論叢編集委員長 小野寺 賢一

下記の通り原稿を募集します。奮って御執筆くださるようお願い致します。

内 容： 言語研究・語学教育に関する論文（書評、研究ノート、資料等も可とする）。
文学作品等を対象とする言語学・文献学等の方法を駆使した研究も含む。

資 格： 1. 本学外国語学部専任教員（客員教員、特任教員、助教を含む）
2. 本学外国語学部非常勤教員
3. 共同研究の場合は第一執筆者が該当者であること
4. 客員研究員、学外研究員
5. 本学大学院外国語学研究科博士課程後期課程に在籍の学生（推薦書が必要）
6. その他編集委員会が適格者として認めたもの（推薦書を必要とする場合もある）
※ 応募論文多数の場合は上記番号順に優先権を有する。

投稿申込： 2022年5月17日（火）から2022年7月12日（火）15：00迄（必着）
「執筆申込書」をメールで添付送付すること。

To：語学教育研究所 daitogoken@gmail.com Cc：編集委員長 小野寺賢一 kenichi_onodera@ic.daito.ac.jp

所定の用紙： 執筆申込及び原稿提出の際に必要な以下の所定の書類は、語学教育研究所のHPに掲載する。
執筆申込書、原稿フォーマット、大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書、指導教員推薦書
語学教育研究所HP <https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>

原稿提出締切： 2022年9月16日（金）15：00迄（必着）

原稿提出先： 語学教育研究所 daitogoken@gmail.com 宛にメールで添付送付すること。
メール送付できない場合は、レターパックライト（青）による郵送での提出も可とする。
その場合は紙版とともにCD-Rなどのデータファイルを同封すること。
大東文化大学 語学教育研究所 〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 (TEL：03-5399-7330)

原稿と一緒に提出するもの

- (1)大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書
※手書き・押印必要のため、語学教育研究所宛に直接または郵送にて提出すること。
- (2)指導教員の推薦書
※大学院後期課程の学生のみ、メール添付で提出、その際指導教員のアドレスをCcで入れること。

投稿規程： 1. 未発表の完成された原稿であること。
2. ワープロ原稿とする。横書き全角38字・35行、欧文の場合は半角70字・35行、それぞれA4用紙15枚以内とする（図版・レジュメを含む）。原則、HPの原稿フォーマットを使用のこと。指定ファイル以外の場合、フォント・サイズ等は原稿フォーマットのレイアウトと同様の設定をすること。1ページあたりの文字数・行数等の規定を遵守せず、最終的に15ページを超えてしまった場合は、掲載をお断りする。書式、表記など、甚だしい誤字脱字などがある場合、受け付けないことがある。
3. 本文以外の言語のレジュメを論文の前に付すこと。欧文のレジュメの場合もそれに準ずる。（日本語、中国語は400字以内、欧文は300語以内）また、キーワードを5語前後、列挙すること。（本文の言語による）
4. 論文の題目は日本語及び中国語原稿には欧文、欧文原稿には日本語を付記する。
5. 欧文タイトルの書式は、編集委員会に一任すること。
6. 印刷所等は語学教育研究所に一任すること。
7. 抜刷り贈呈は20部とする。増刷分は個人負担とし、執筆申込書に増刷部数を明記する。
8. 提出された原稿の審査による採否及び、ジャンルの特定は一切編集委員会に任せること。
9. 母語でない言語での論文については、題目、要旨も含めて必ずネイティブ・チェックを受けること。
10. 投稿時には謝辞、補助金、執筆者が特定される記述等を書かないこと。謝辞等については、掲載が決まり、査読後の修正原稿提出時に規定のページを超えない範囲で加筆してよい。

校 正： 著者による校正は二校までとし、紙での校正を原則とする。内容、ヘッダー及びページ番号など、関連付随事項に関して、著者の責任において校正のこと。各校正の提出期限までに未提出の場合は、掲載を見合わせる場合がある。新規加筆は認められない。

発 行 日： 2023年3月発行予定

問い合わせ先： 語学教育研究論叢 編集委員長 小野寺賢一（E-mail：kenichi_onodera@ic.daito.ac.jp）

以上

2022年度『語学教育フォーラム』第38号原稿募集のお知らせ

語学教育研究所

所 長 丁 鋒

編集委員長 上村 圭介

『語学教育フォーラム』第38号（2023年3月刊行予定）の原稿を下記の要領で募集いたします。

記

1. 募集原稿は、言語学・言語教育に関する論文（未発表のもの）、索引、未刊行言語資料の復刻、研究資料要覧、言語研究・教育に有益なデータ類、文学作品の言語学的分析等の分野のものとしします。
2. 応募資格は著者、筆頭著者、または筆頭編者が以下の所属であることとします。ただし、編著の場合は編者が、共編著の場合は筆頭編者が応募資格を有することとします。また、優先順位は下記番号順とし、本制度を今までに利用されていない方を優先します。
 - ① 語学教育研究所研究員
 - ② 外国語学部専任教員
 - ③ 語学教育研究所客員研究員
 - ④ 外国語学部客員研究員
 - ⑤ 外国語学研究科客員研究員
 - ⑥ 他学部専任教員
3. 刊行形態としては以下の通りとします。（ただし、予算の関係上、変更を求める場合があります。）
ワープロ A4 判で、200 枚以内のもの。単体での刊行を原則とします。ただし、応募状況によっては複数論文から成る論文集として刊行します。和文・中文は 35 字×40 行、欧文は 65 字×40 行を目安とします。
4. 原稿は電子データとして提出してください。また、併せて印刷見本 1 部と PDF ファイルを提出してください。電子データの提出がない場合には受付できません。なお、電子データは原則として Microsoft Word 形式とします。それ以外の形式で提出された場合には、最終的な編集作業にご協力いただくことがあります。
5. 外国語による出版を希望される場合、ネイティブチェックを済ませた原稿を提出してください。なお、ネイティブチェックにかかる費用は著者の負担となります。
6. 完成原稿（カメラレディ原稿）を提出してください。校正はありません。
7. 執筆申込につきましては、執筆申込書を 2022年5月11日（水）～7月13日（水）15:00 迄に語学教育研究所まで提出してください。なお、執筆申込書は語学教育研究所の HP に掲載します。
8. 完成原稿は 2022年10月14日（金）～11月11日（金）15:00 迄に語学教育研究所まで提出ください（期限厳守をお願いします）。
9. 応募原稿は、研究所所長、研究会会長および当研究所が依頼した審査委員によって審査をいたします。その結果によっては刊行不可能となる場合もございます。なお、審査結果は文書にて 12 月下旬（予定）までに通知いたします。応募論文数と予算との兼ね合いで、必要な場合には調整をさせていただく場合があります。

ご不明な点がございましたら、編集委員長 (kamimur@ic.daito.ac.jp) および所長 (fengd0761@ic.daito.ac.jp) までお問い合わせ下さい。

購入図書一覧

分野	書籍名	著者等	出版社
中	中国語と私－学び、教え、極める、中国語に生きる（中国語「知」のアーカイヴズ）	輿水優	好文出版
中	Compendium of Phonetics in Ancient and Archaic Chinese	Bernhard Karlgren	Smc Pub Inc; Reprint of 1954版
中	国際中国語教育中国語レベル等級基準	中国語教育部中外語言交流合作中心	ask
中	19世紀稀見英文期刊与汉语域外传播研究国际汉语教育研究丛书1	方环海著	厦门大学
中	一带一路背景下的汉语国际教育 第2辑	姚喜明編著	上海大学
中	対外漢字教学参考資料	李大遂編著	語言大学
中	元語言意識及字詞习得研究：来自汉语儿童和留学生的实验证汉语国际教育青年学者文库	郝美玲著	世界图书
中	民国小学母语教育研究 博士生导师学术文库	朱季康著	光明日报
中	西方早期汉语研究文献目录 国际汉语教育史研究丛书	张西平, 李真編	商务印
英	The Oxford Handbook of Decadence	Jane Desmarais	Oxford University Press
英	Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective	Hideki Kishimoto	Hituzi Syobo Publishing
英	言語研究の楽しさと楽しみ：伊藤たかね先生退職記念論文集	岡部 玲子, 矢島 純, 窪田 悠介, 磯野 達也	開拓社
英	ことばの様相 ―現在と未来をつなぐ―	島 越郎, 高澤 直人, 小川 芳樹, 土橋 善仁, 佐藤 陽介, ルブチャコルネリア	開拓社
英	文法現象から捉える日本語	岸本 秀樹	開拓社
英	音韻論と他の部門とのインターフェイス	時崎 久夫 (著), 岡崎 正男	開拓社
英	英語の仕組みと文法のからくり―語彙・構文アプローチ	岩田 彩志	開拓社
独	Reallexikon der Deutschen Literaturwissenschaft	Georg Braungart	De Gruyter
独	Metzler Lexikon antiker Literatur: Autoren – Gattungen – Begriffe	Bernhard Zimmermann	Metzler
独	Handbuch zu den „Kinder- und Hausmärchen“ der Brüder Grimm: Entstehung – Wirkung – Interpretation	Hans-Jörg Uther	De Gruyter
仏	2022年度版 1級・準1級仏検公式ガイドブック	フランス語教育振興協会編著	駿河台出版社
仏	仏検公式ガイドブックセレクション準1級 (CD付)	フランス語教育振興協会編著	駿河台出版社
仏	仏検公式ガイドブックセレクション1級 (CD付)	フランス語教育振興協会編著	駿河台出版社
仏	旅と冒険の人類史大図鑑	マイケル・コリンズ監修	河出書房新社
仏	ベルベル人：歴史・思想・文明	ジャン・セルヴィエ著	白水社
仏	ラールス ギリシア・ローマ神話大事典	ジャン・クロード・ベルフィオール著	大修館書店
仏	2020仏検公式ガイドブック セレクション3級	編集：公益財団法人 フランス語教育振興協会 (APEF)	駿河台出版社
仏	黒いナポレオン：ハイチ独立の英雄 トゥサン・ルヴェルチュールの生涯	ジャン＝ルイ ドナティウー著 大嶋厚訳	えにし書房
日	日本語教育事典 新版	日本語教育学会 (編)	大修館書店
日	世界の文字と記号の大図鑑 Unicode 6.0の全グリフ	ヨハネス・ベルガー・ハウゼン (著), シリ・ポアランガン (著)	研究社
日	JIS X 0221:2020 国際符号化文字集合 (UCS) Information technology -- Universal Coded Character Set (UCS)		日本規格協会
日	『社会言語学』22号	『社会言語学』刊行会	『社会言語学』刊行会

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 46

2023年3月1日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

TEL 03(5399)7330

FAX 03(5399)7381

Email: daitogoken@gmail.com

<https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>